

定部金貳錢 一月極二限 廣告五字一十行 刊日 印刷所 一〇活版所

發行編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長崎町廿五番地 發行所 常磐毎日新聞社

刊夕日七十月三

産婆看護婦生徒募集

◆修業年限 産婆看護兩科を通じて滿一ヶ年

◆願書提出 四月八日限り

平町一丁目 電話三五七番

石城 産科婦 看護婦 學校

常磐文藝 公園

飯村閑舟

若き芽の萌ゆれば
若き人々の胸は
忽如と燃わて
ゆらぎける
浮れ心よ、
自我は情氣つゝ
うねる公園の坂道を
登り歩みて
筈道に青緑の色敷く
天に仰ぐ禮規の
正しき木立に人間の心も
みだらなき木立の不動の
「美」に驅られ、ばこそと
案趣を描きて

臺場に登り詰め
池の片傍に近しげて
暫時佇み噴水の
折心なき働きに
極め悟りぞ
逢ふ迷ひ
迷ひはかさなり
幾度びか
感得深るる
公園の眞理は
清生の享樂と
胸打つ際の
快樂よと
鼓動激しき
迷ひ道心
おぢげかゝりし
公園は清き心を研ぐ
魔性が迷ふ日と
誰やらぬ者が絶叫せる。終

古本高價買入

郷土社

新古圖書廉賣

子マミナミ。ラヒタ

一、建築請負
一、大谷石
一、セメントグリウ
一、高級接合料ニシテ何デモ接グヌモノナシ
一、土地建物
一、買並ニ是ニ關スル萬般ノ御相談ニ應ズ
一、床柱床縁落掛
(澤山新荷着)

磐城建物株式會社
平町五丁目
電話五八一番

思想界十把一束論

寄書 不攀大岳人

(五)

何となれば均衡を得た自由と平等と云ふのは眞正の平等的自由の意味であり、其の眞正の平等的自由は言ひ換へれば所謂人格的平等であり、随つて各人の自由は其人の能力、性狀社會的貢獻に比例すると同時に一定の限界があります。その限界は社會協同を破らないう意味に於て上にも下にもあります。殊に下の限界に於て云へば所謂人格的平等であり、其の平等の根本たる人格自由が全然な

空前の大勉強

靴と運動具が

と云ふ事は豊富な品を御一覽下さればわかります

平白銀町(驛前)

大塚支店

◆徒弟數名入用◆

神社佛閣附屬彫刻

銅像木像
金看板及
圖案

玉峰堂

子弟入用に付き
御希望の方御來談相成たし

一十九町冶鍛古平

東京五斯
コークス値下通知

九貫入 壹俵 壹圓六拾五錢
半ト 拾五俵 貳拾四圓
壹ト 參拾俵 四拾七圓

佐藤鐵工所

コークス部
電話三六二番

いものは認めない、即ち精神上並に物質上に於て人としての最低限は是非共現實に享有せねばならぬ意味を含みます。而かも人に依つては病氣とか貧窮とか低能とか不運とか種々の原因の爲めに此の最低限の現實享有すら不可能な場合が少なくないのであります。此んな人がある様では人格的平等の根源たる人格も平等も絶対に破れる譯であるから同一社會の他の全員は之が豫防に全力を盡し豫防の出來ない範圍に於ては之が匡正を欠かない様にする、又之を欠けば社會全員は社會の成員たる連帶責任に反す

株式買中値

左記の値段は本日標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	時價
平銀行	五〇〇	五七〇
磐越銀行	二二五	七三〇
磐城實業	三〇〇	一〇五
田村實業	一一五	二九五
四倉銀行	一七五	二二五
農工銀行	二〇〇	一七〇
同新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	五五〇
同新	二二五	一六〇
七七銀行	二二五	九八
郡山電氣	五〇〇	三八五
同新	二二五	一八〇
只見川電	二二五	七三
植田水電	二二五	一五五
好問水電	二二五	一四五
磐城製菓	二〇〇	五五
磐城製菓	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	三五〇
磐城製菓	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製氷	二五〇	二五〇
好問軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一〇〇
磐城炭礦	五〇〇	四三〇
同新	二二五	一九〇
磐城セメント	五〇〇	七三〇
同新	二二五	三八〇
平運送	一一五	八〇

東新株 先限 實物
平町田町 電話三三二番
丸登株式會社
川添房二郎

少年や少女の大きな難關

入學試験テツ廢に關して

櫻井磐女校長の意見

入學試験—それは大きな難關の一つとして、これだけ少年少女を悩ましてゐるか判らない。そのため折角伸びる素質を有つた子供の將來を傷つけた例は幾らもある。入學試験廢止の問題は毎年入學期に際すると各方面で同じやうに問題にされてゐるが何時も實行の域に進まない。櫻井磐城高等女學校長に試験廢止可否を聞くに「試験を廢止すれば各自が好きな學校にゆけるから自然平均されてさ程に大騒ぎする必要もなくまた子供たちにごだけ幸福をもたらすか判らない、兎に角いくらか試験の方法を改正しても弊害は依然として續くものであるから優秀は學校にまかすればよい、教育の仕方如何に依つては良くも悪くもなる事を教育者自ら自覺して不合理な入學試験を廢せねばならぬと思ふ」と語つた。

聖上御容體

輕微の腎臟炎

大正十一年十月 天皇陛下御容體發表後昨十二年葉山御遊幸中は、一般の御容體御良好の方にあらせられしが初夏の頃より輕微の腎臟炎に罹らせられ、御静養の結果、同症は漸次御快方に向はせられ御運動其の他の御起居は略々御平常に復せらるゝに至り、御食氣は御變りなく、御體量も近頃御増加あらせらる御發語御記憶等御腦の御容體は以前に比し幾分御増進の御模樣に拜し奉る。

水道を敷設

來月設計を

平町舊城跡は住宅好適地として近來長足の發展を遂げて居るが高臺である爲めに水道敷設工事が容易でない處から住民は飲料水に困難を感じ數回町當局へも敷設方を請願する處あつたが愈

三等客頓死

車内の消毒

去る十五日午後四時卅二分平驛着上り第八〇四號旅客内に年齢十七八歳店員風の男が死亡して居たが平驛員檢視の結果腸チブスにて急死せるものと判明車内消毒

水道の恩恵を感謝

湯本町民の窮乏を思ひ

平町民は如何に幸福か

湯本町民が飲料水に窮乏を告げて居る悲惨な狀況を聞くにつけても平町民は先づ水道の恩恵を感謝せねばなるまい。現在平町の水道供給数は専用六百七十六件特別専用卅四件計七百八十件其他公設専用栓が四十八件私設同七十四件、私設消火栓五十四件であるから合計千五百件に達し一ヶ月の配水量は約十五萬石内外である。而して水質は全國有数の良質であつて最近の検査に依れば細菌の聚落數が鎌田

眞面目な問題

眞面目な問題

一個の個人を愛するが社會を愛するが或は全人類を愛するが如何にして愛するが女性生命の根は愛であらねばならぬ。愛し得ざる女性、愛に餓えたる女性、最も苛酷なる試練に逢つて不幸者である完成の

産馬事業視察農商務

省畜産局高瀬善左衛門氏

は本縣産馬事業視察の爲め來縣十六日石城郡に至り十七日郡役所に於て同郡組合事業の調査を爲し翌十八日相馬郡に向ふ

不平受付

店員の恩勞

川村木賃宿止宿安達郡新殿村生れ石臼業渡邊市藏(電)は十四日午後五時頃平町南町磐越銀行附近で病氣の爲め倒れて居たので行路病者として平町役場に引渡さる

魚肥製造組合

濱三郡聯合

石城雙葉相馬の濱三郡魚肥製造者は斯業の改良をはかる目的で福島縣魚肥製造組合を設立することとなつたが事務所は小名濱水産試験場内に設け組合員は百九十一名に達して居る

珍聞奇聞

他見男の講演

甲府高等女學校で滑稽小説家奥野他見男の試みた講演は淫蕩野卑であつた爲め問題起る

盲人眼があく

大坂市吉村動七(七)は五十一一年目に盲目が見える様になり婆さんの顔の皺を見て驚いた

金持厭になる

大坂市山口玄洞氏は千萬圓以上の富豪であるが世の無情を感じ財産を捨てて木魚を叩く

酔拂つた博士

山形市病院長藤森博士は泥酔し他人の家に泥靴で上り込みおまけに戸障子を破るの狼藉

産看卒業式

清野校長訓示 平町南町平産看護婦學校にては本日午後二時から第十六回卒業式を舉行し校長清野キヨ子女史の訓示や來賓の祝辭あつたが卒業生左記の如くである

石城會計検査本縣屬

阿部治英大排七雄、長谷川幸太郎の三氏は平町各官衙學校の會計検査來郡十七日より三日間郡役所に検査

石城に支會を

石城郡在住蠶業學校卒業生を以つて石城同窓支會を組織し昨日午後一時から新藤屋旅館に於て發會式を舉げ

平町人事

△出生 △死亡